

市民フォト

鹿児島

No.50
平成4年(1992)10月1日

特集・平川動物公園の一日

～あなたの知らない素顔も紹介





●平川町上空から

緑豊かな山と美しい錦江湾が調和を見せており、自然に恵まれた町・平川町。この自然を生かして鳥帽子岳自然遊歩道(写真左の山あい)や平川動物公園(写真左上)、錦江湾公園(写真右上)、平川ヨットハーバー(写真右下)などが開設され、多くの人に親しまれている。

今年、開園20周年を迎える平川動物公園は地形を

生かし、植物と動物が一体的に構成された動物公園。また、錦江湾公園は四季を通じて楽しめる花と緑とロケットの公園。特に、夏はキャンプのメッカとしてにぎわう。また、ヨットによる単独無寄港世界一周を成し遂げ、初の鹿児島市民栄誉賞を受賞した今給黎教子さんは、平川ヨットハーバーを拠点に、錦江湾で腕を磨いた。



●「表紙」写真説明

いつも手軽に健康づくりができるかごしま健康の森公園。豊かな自然の中でジョギングをしていると、体と心がほぐれてくる。木本を渡ってくる風がさわやかだ。
(人物は、ミス鹿児島の浦底裕美さんと大迫小の子供たち)

もくじ

わがまち高度350m	2
特集／平川動物公園の一日	3
あなたの中知らない素顔も紹介	11

クローズアップ(今給黎教子さん)	12
学校探訪(小山田小学校)	13
カメラトピックス	14
シティーアングル	15
わたしの散歩道(河口貞徳さん)	16
ハロー鹿児島(區 冬蓮さん)	17
市民のひろば	18
(海に長才の声が響く／高齢者洋上セミナー)	19
ふるさとの史跡(興國寺墓地)	20
集えば楽し(ボランティア「わかば」)	21
あなたのフォトサロン(92・イン・サマー)	22
動物公園のゆかいな仲間たち	23
市立美術館「花の香をかぐ女」	24
（海に長才の声が響く／高齢者洋上セミナー）	25
ふるさとの史跡(興國寺墓地)	26
集えば楽し(ボランティア「わかば」)	27
あなたのフォトサロン(92・イン・サマー)	28
動物公園のゆかいな仲間たち	29
市立美術館「花の香をかぐ女」	30
（海に長才の声が響く／高齢者洋上セミナー）	31

特集

平川動物公園の一日

あなたの知らない素顔も紹介

親しまれて二十年

五十六年の歴史を刻んだ鴨池動物園から移転して、昭和四十七年十月十四日に開園した平川動物公園。自然と調和のとれた園内の雰囲気は、動物たちとの出会いを、より感動的なものにしてくれています。開園以来の入園者は延べ千二百五十万人余り。子供からお年寄りまで多くの人に親しまれています。

動物たちから学ぶ

世界中から平川動物公園にやってきた動物たちの日々の姿は、地球上にいろいろな生物がいて、それぞれの生物は異なる能力を持っていること、そして私たち人間がおごることなく共存していくことがいかに大切なことを教えてくれています。

楽しみながら、こんなことも学べる動物公園を、これからもごひいきに！



・シマフクロウのシマオじいさん

「わしは、平川動物公園で一番長生きをしておるシマフクロウじゃ。34年以上も生きておるから、この動物公園のことは何でも知ってるよ。さようは、わしが平川動物公園の一日を案内してあげよう。」



・キリンのサクラちゃん

「わたしは、キリンのサクラ。今年3月の桜の季節に生まれたばかり。まだ知らないことをいっぱいあるの。シマオじいさん、わたしにもいろいろ教えてね。」





シマオ「そうそう、開園以来入園者が1000万人を達成したのは昭和63年8月8日の午前11時じゃった。」



シマオ「友好都市・長沙市からレッサー・パンダが来たのは昭和63年7月。初めから愛嬌のある2頭じゃったなあ。」



十二年間にわたり、国の特別天然記念物アマミノクロウサギの飼育研究を継続している平川動物公園が、野生動物の繁殖などの業績に対し贈られる平成4年度の「古賀賞」を受賞しました。

「古賀賞」は、動物園や水族館の発展に尽力し、昭和六十一年に亡くなつた上野動物園の園長、古賀忠道さんの業績をたたえて、同年に制定されたもので、これまでに全国六つの動物園、水族館が受賞しています。

土中の穴に住み、夜行性のアマミノクロウサギは飼育・繁殖が難しく、こ

ひとくちメモ① アマミノクロウサギの飼育で 「古賀賞」受賞。

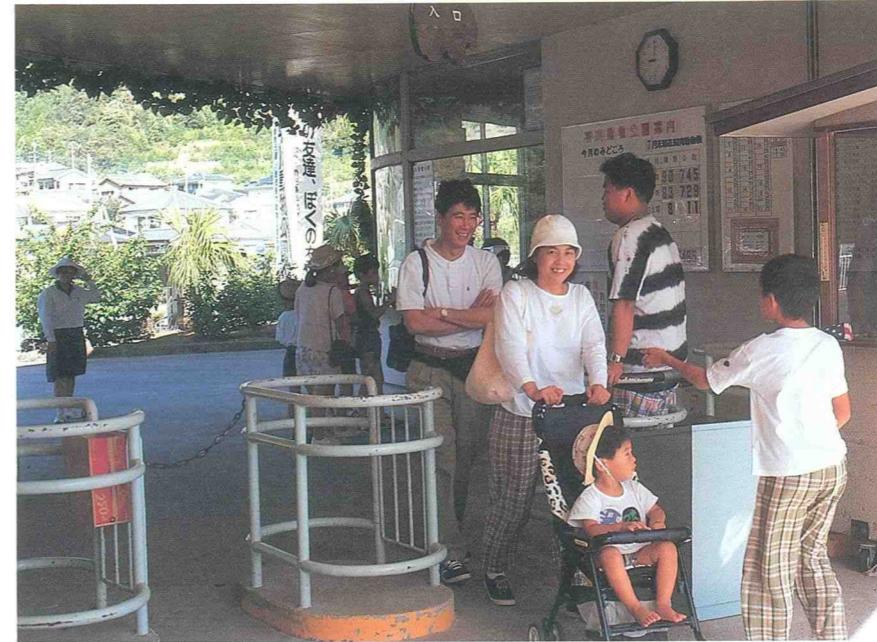
わたしは飼育舎からアフリカ園に出て、ダチョウさんやシマウマさんたちといっしょに遊ぶの。



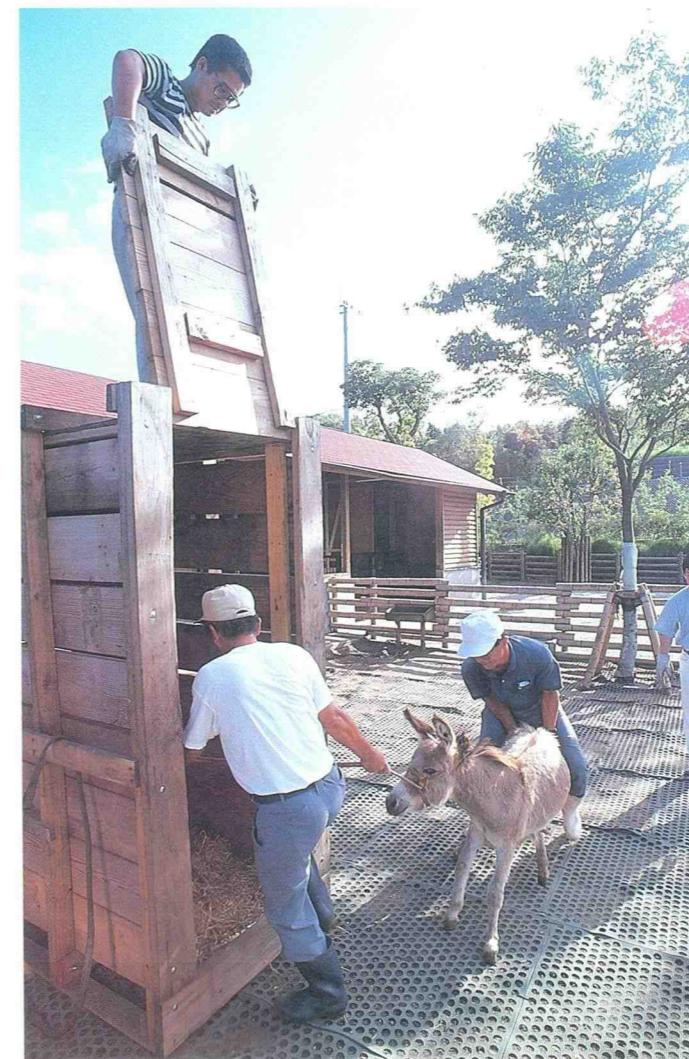
●古賀賞

これまでその生態はあまり知られていました。平川動物公園ではアマミノクロウサギを昭和五十五年から十三匹飼育し、これまで同じペアで十一例の繁殖に成功。氷点下でも元気に活動したり、厳しい繩張り性など、これまで明らかになつていなかつた生態もわかりました。

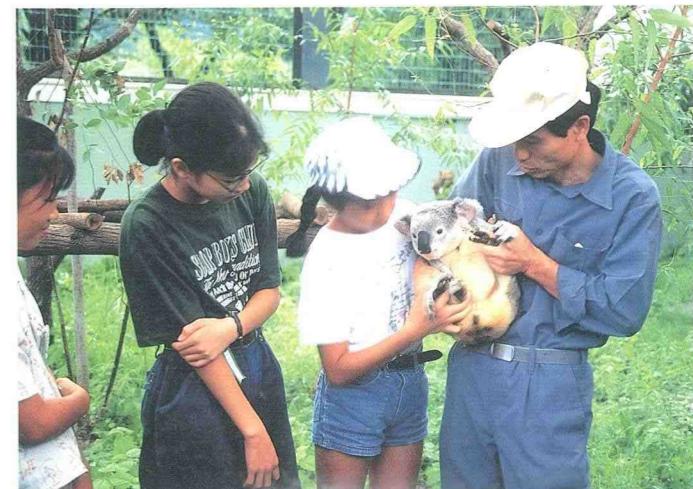
「生きた化石」ともいわれ、絶滅の危機が叫ばれている珍獸アマミノクロウサギ。現在、平川動物公園では三世誕生に向けて、さらなる研究が続けられています。



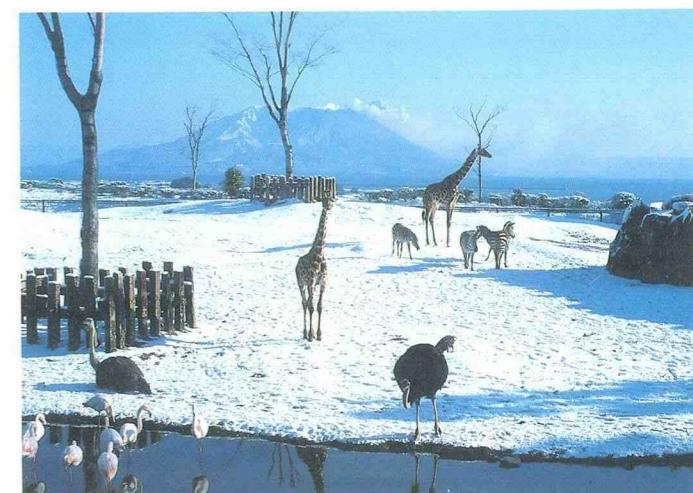
サクラ「午前9時。さあ、開園よ。うれしそうな顔をみると、わたしたちもはりきっちゃう。」



シマオ「このロバは川崎の動物園に引き取られていたんじゃ。娘を嫁にやるようで、飼育係のおじさんが寂しそうじゃった。」



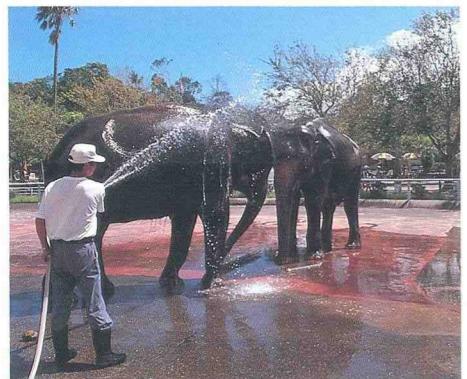
サクラ「今年のサマースクールでは、鹿児島で初めて子供がコアラを抱っこしたのよ。」



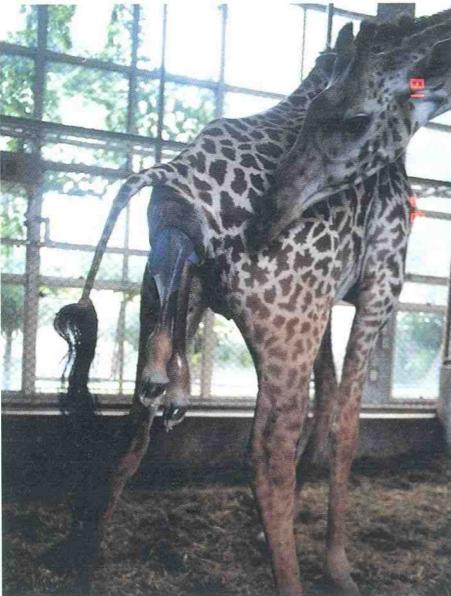
サクラ「雪景色のアフリカ園なんて、わたしたちの故郷ではちょっと想像できないわね。」



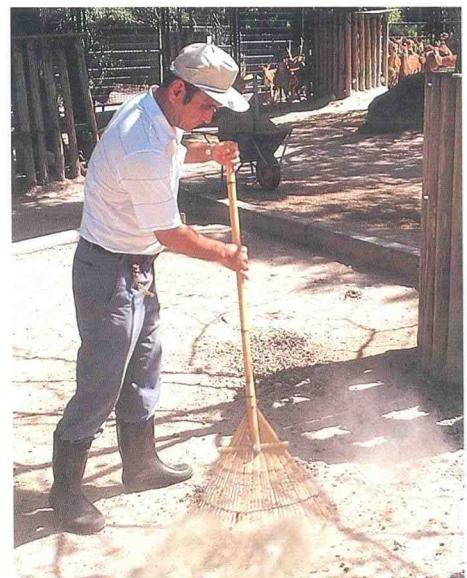
サクラ「アフリカ出身のわたしたちでも直射日光の暑さは嫌い。木陰を求めて避難するの」。



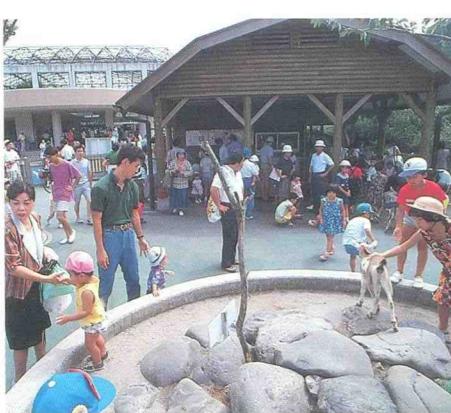
サクラ「水浴びして気持ちよさそう。飼育係のおじさんは優しいのよ」。



サクラ「わたしの姉さんの出産シーン。キリンの仲間は、とても愛情が細やかなのよ」。



シマオ「わしらの住まいをきれいにしてくれるのも飼育係のおじさん。このハナジカどもは40頭位おって、どこででもファンをするんで、そうじが大変らしい」。



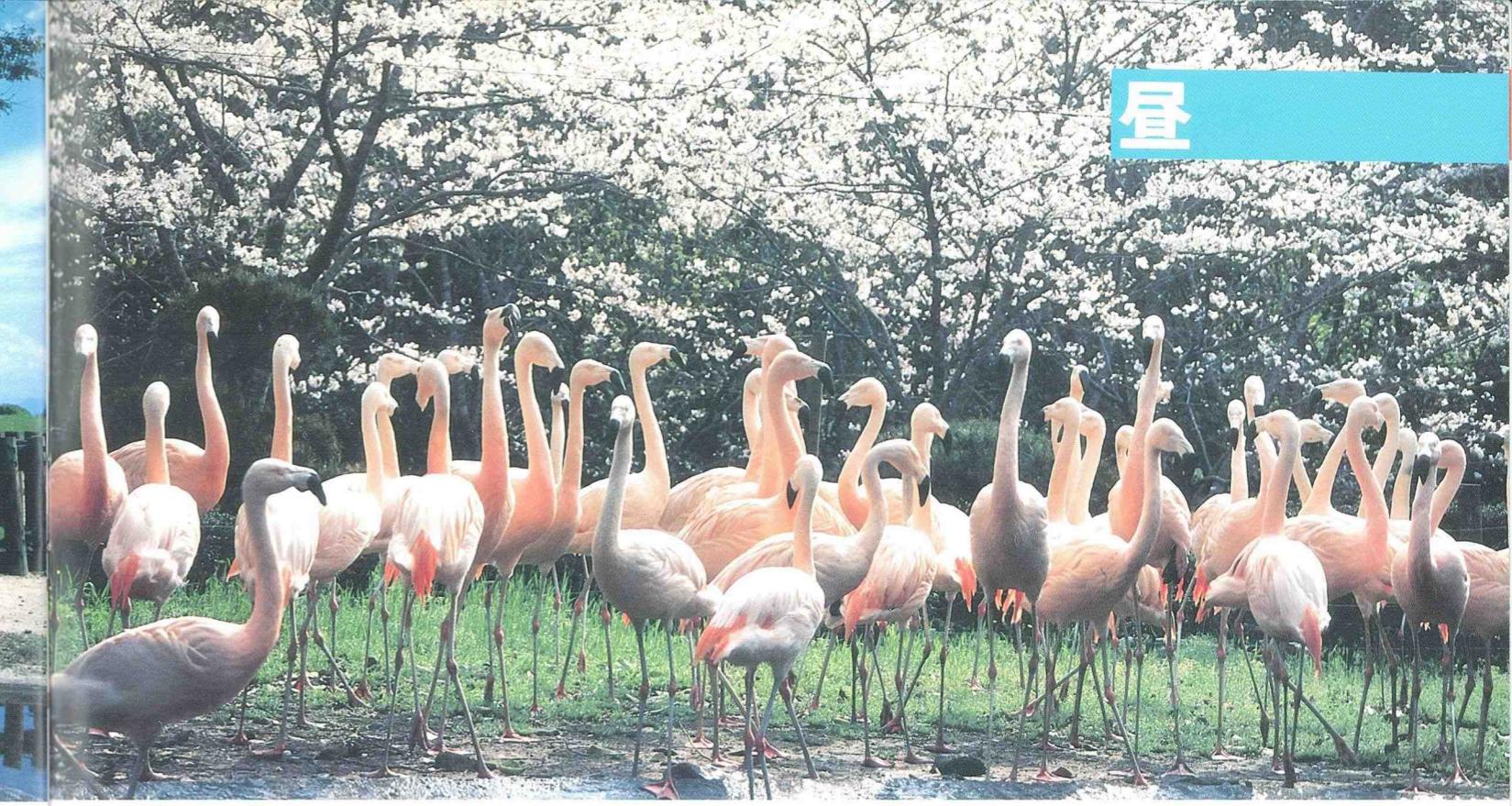
シマオ「子供たちに人気のタッチングコーナー。人間と同じ生き物なんじゃから、やさしく接してほしいものじゃ」。



サクラ「昨年12月に仲間入りした北極グマの力丸姉さん。なかなか美形ね」。



シマオ「わしらの病気を治してくれる獣医さん。わしらは痛みを訴えんから、獣医さんや飼育係のおじさんたちは、健康チェックには毎日気を使うらしい」。



サクラ「わたしが生まれた日もこんな桜の時期だったわ。動物公園は四季の花々も見えたえあるのよ」。



シマオ「人間を観察していると、おもしろいぞ。変わった生き物じゃな。それにしても、アメリカバクは水に浸かって気持ち良さそうじや」。



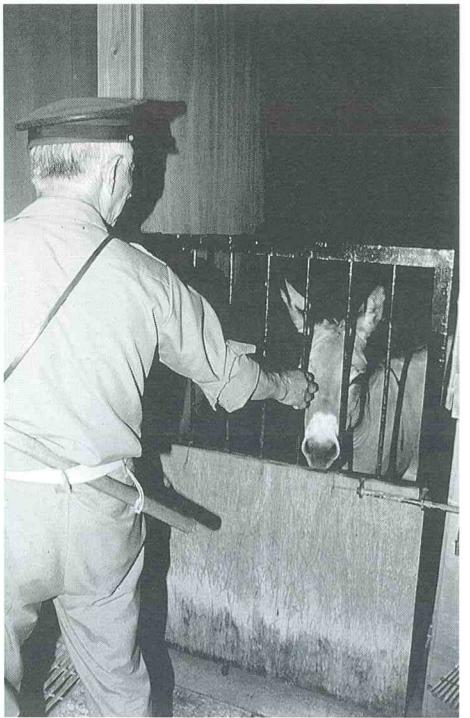
シマオ「動物公園の真ん中を流れる五位野川は、子供たちのかっこう遊び場じや」。



サクラ「動物公園へのお客様は人ばかりじゃないの。野鳥もいっぱいやってくるわ。ヤマガラさんもその中の1羽よ」。



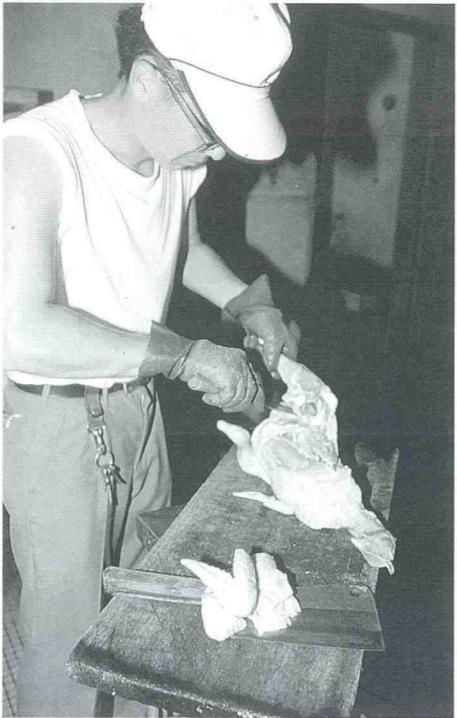
夕方・夜



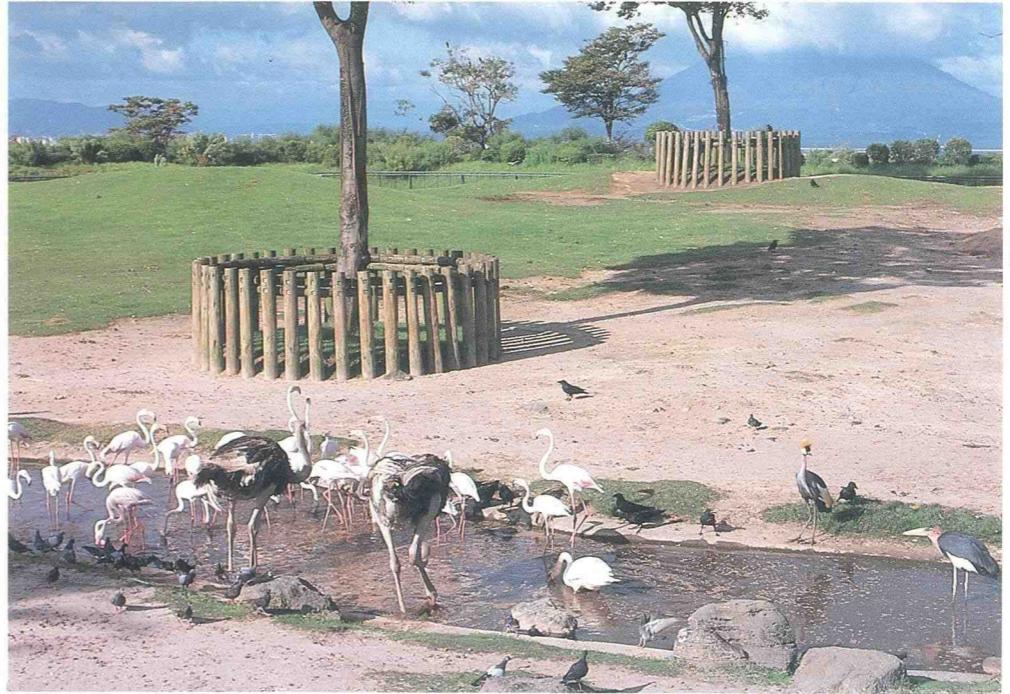
サクラ「夜は警備のおじさんが園内を巡回する。17時、21時、1時、5時の4回。おじさんが来るのを待っている仲間もいるのよ。」



サクラ「飼育係のおじさんの1日は飼育日誌をつけて終わるの。獣医さんが点検して、わたしたちの健康管理をしているのよ。」



シマオ「ゴクッ。そろそろ食事じや。エサの用意の包丁さばきは見事なもんじゃな。」

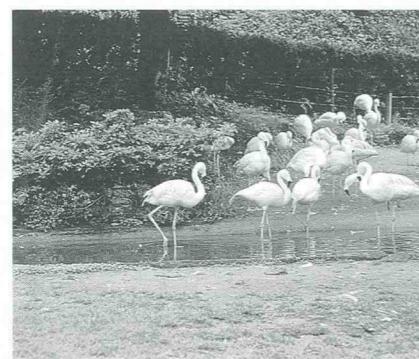
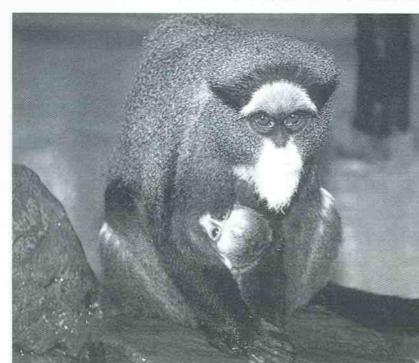


サクラ「アフリカ園の夕食の時間にはカラスとハトがやってきて、フラミンゴなんかのエサを横取りするの。ちゃっかりしてるんだから。」



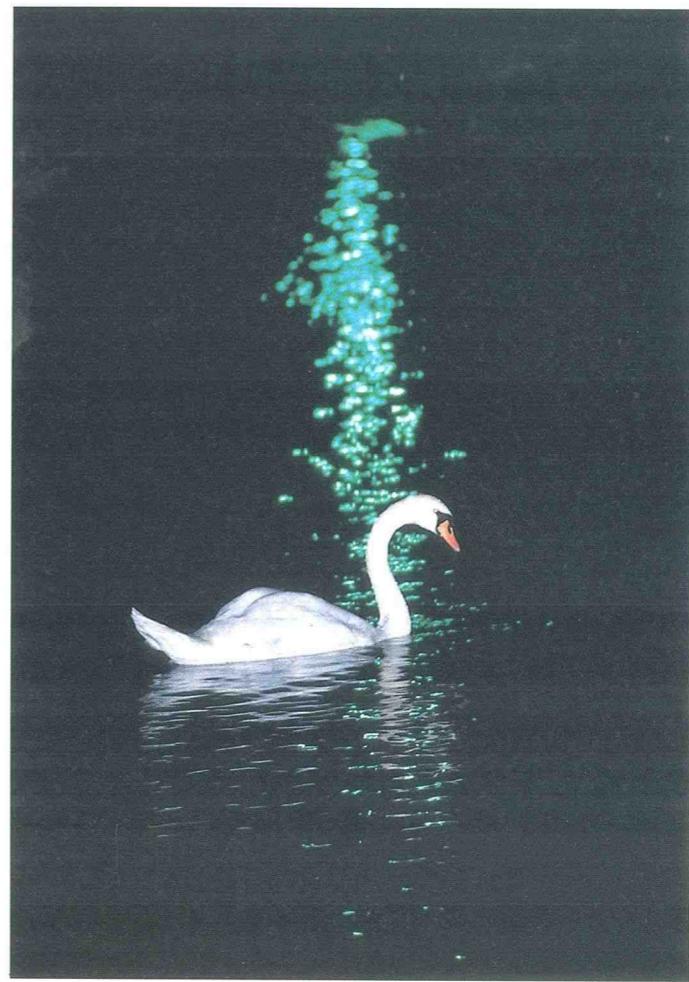
フラミンゴ：サル君たちのマンションも住み心地が良さそうだけど、ぼくら三十種、二〇〇羽の鳥が住むフライングページも日本屈指の規模を誇るだね。

フラミンゴ：お互い身づくろいに精を出して、一層の入園者サービスに努めるとしましょうか。

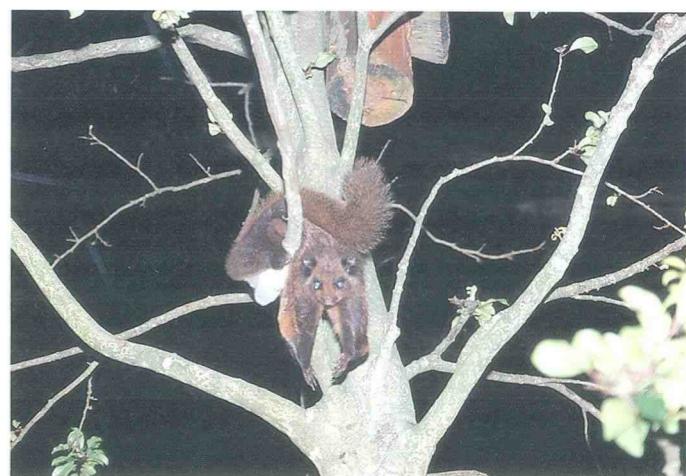


ひとくちメモ② 申西座談会

■出演
さる代表：ブラッザモンキー
とり代表：フラミンゴ



シマオ「水銀灯が水面に映えてキラキラ輝いておる。コブハクチョウも優雅に泳いでおるな。」



シマオ「夜行性の動物は日が暮れると活発に動く。コアラやリスの森のムササビもその仲間じゃ。」

平川動物公園

こんな数字

●どんなものが多く食べられているの?

(1年間: 平成3年度)

- 1位／草食獣用ペレット…44,100kg
- 2位／青草……………41,430kg
- 3位／乾草……………27,360kg



●大食漢は、だあれ?

(1日1頭当たりに与える量: 平成3年度)

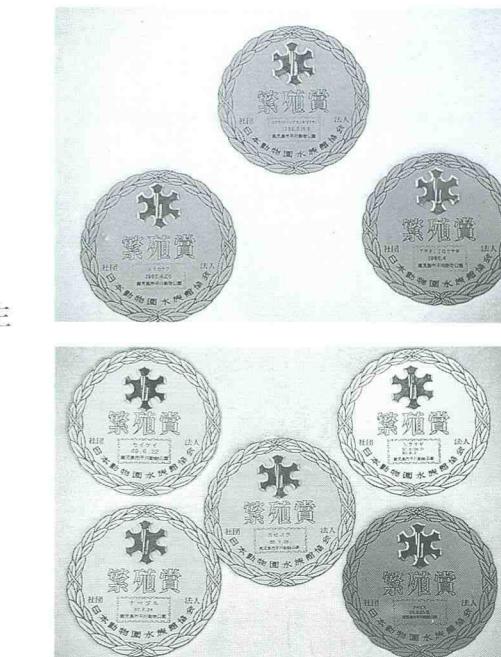
- 1位／インドゾウ…乾草25kg、青草10kg、ペレット10kg、
人参5kg、りんご5kg、バナナ1kg、
パン2kg、キャベツ2kg 計60kg
- 2位／シロサイ…乾草10kg、青草5kg、
ペレット5kg、ふすま2kg 計22kg
- 3位／キリン…ルーサン(ムラサキウマゴヤシ)7kg、
青草4kg、ペレット2.5kg、ふすま0.8kg、
フレーク2kg 計16.3kg



●長寿は、だあれ?

(平成4年9月1日現在)

- 1位／シマフクロウ…34歳以上
- 2位／ヒグマ…………32歳
- 3位／ナベヅル………24歳



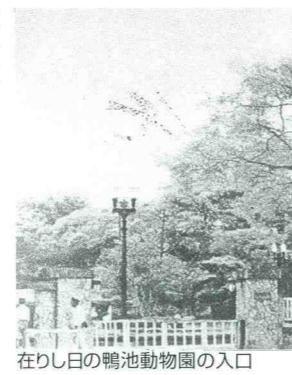
●繁殖賞受賞回数／8回

繁殖賞は、日本動物園水族館協会加盟の動物園・水族館において、戦後わが国で初めて繁殖(自然、人工)し、6ヵ月間以上成育した動物に与えられる賞です。

- セイケイ……………昭和49年6月22日誕生
- ヘラサギ……………昭和50年8月26日・31日、9月2日誕生
- カビシミラ…………昭和52年7月26日誕生
- ナベヅル……………昭和57年6月24日誕生(人工)
- ナベヅル……………昭和59年6月10日誕生(自然)
- アマミノクロウサギ…………昭和60年4月誕生
- ルリカケス……………昭和60年4月26日誕生
- コアラ(クインズランドコアラ)…昭和61年5月16日誕生

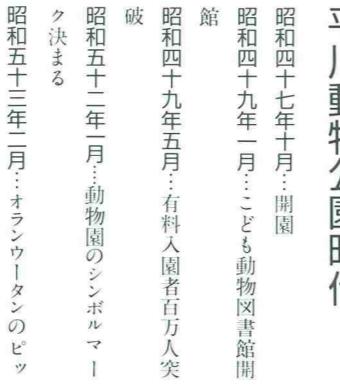
平川動物公園のあゆみ

鴨池動物園時代



在りし日の鴨池動物園の入口

平川動物公園時代



コアラ来園



ク君決まる

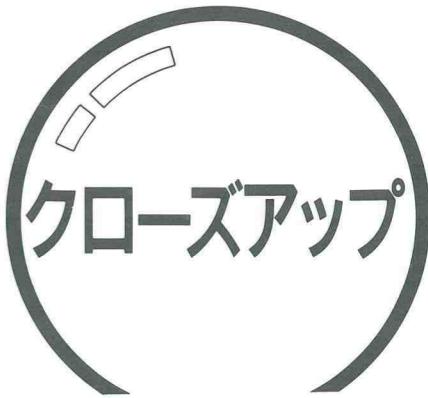


ショウブ園での撮影会

コアラ来園

グレートポセイドン

ショウブ園での撮影会



クローズアップ

LOSE UP

今給黎 教子さん

【プロフィール】
日置郡吹上町生まれ。錦江湾高校を卒業後、鹿児島市役所に勤務するが、ヨットの道に進むため昭和六十二年に退職。昭和六十三年、女性として世界初の太平洋単独往復横断に成功。去年十月、単独無寄港世界一周の航海へ出発。今年七月、無事快挙達成。八月には初の鹿児島市民栄誉賞を受賞。
ヨットウーマン いま きょう こ
き 給黎 教子さん

また一つ、自分の夢をかなえた女性がいる。太平洋、大西洋、そしてインド洋。大海原をたった一人で乗り切ってきた。自然に身をまかせ、自然と対話した一百七十八日の航海。その航海を成し遂げた彼女の笑顔は自信にあふれている。今、最も輝く女性だ。

「皆さん、ただいまー」。七月十五日、彼女は元気な姿で故郷、鹿児島に帰ってきた。

「やつたねー。本当によかった、よかつた」と涙ぐむ朝市のおばちゃん。「この薩摩おごじょは、すごかなー」と口を細めるおじいさん。故郷のだれもが、まるで自分のことのように温かく彼女の快挙を祝つた。

そして、陸に上がって二ヶ月。「自分の判断がすべての海の生活」から百八十度環境が変わった。テレビや雑誌などの取材攻勢。そして、講演や表彰式のため全国各地

と今給黎さんは振り返る。「すべてが自分の時間。ぜいたくな時間だつた」と。同時に、「何でも人間の力でできるという傲慢な考えは通用しない。人も自然の一部といふ謙虚な気持ちを持つことの大切さを航海で実感した」と語る。

一番怖かったのが、巨大な氷山群の中に突入した時。『氷山にぶつかつたら…』と死の恐怖が襲つた。南太平洋では台風に巻き込まれ、体が宙に浮いた。「まるで宇宙遊泳をしているようだった」。大人は語る。「人は、自然の中では無力な存在だ」と…。

当然、自然に対しても敏感になり、五感も研ぎ澄まされていく。「何か頭痛がする、おかしいな」と思つたら、低気圧が来る前兆だった。いつもと違う音は、どんな小さい音でも聞こえる。ある時、「ジヤラシャラ」というかすかな音がして、ヨットの故障かなと不安になつたら「お米がこぼれる音だつた」(笑)。そして、首筋で風を感じることもできる。首の皮膚が敏感になり、風がどの方向から吹いてくるか読めるようになつた。

人が自然の中にすっぽりと包まれた時、本来、人が持つてい

たこんな感覚が呼び起こされるの



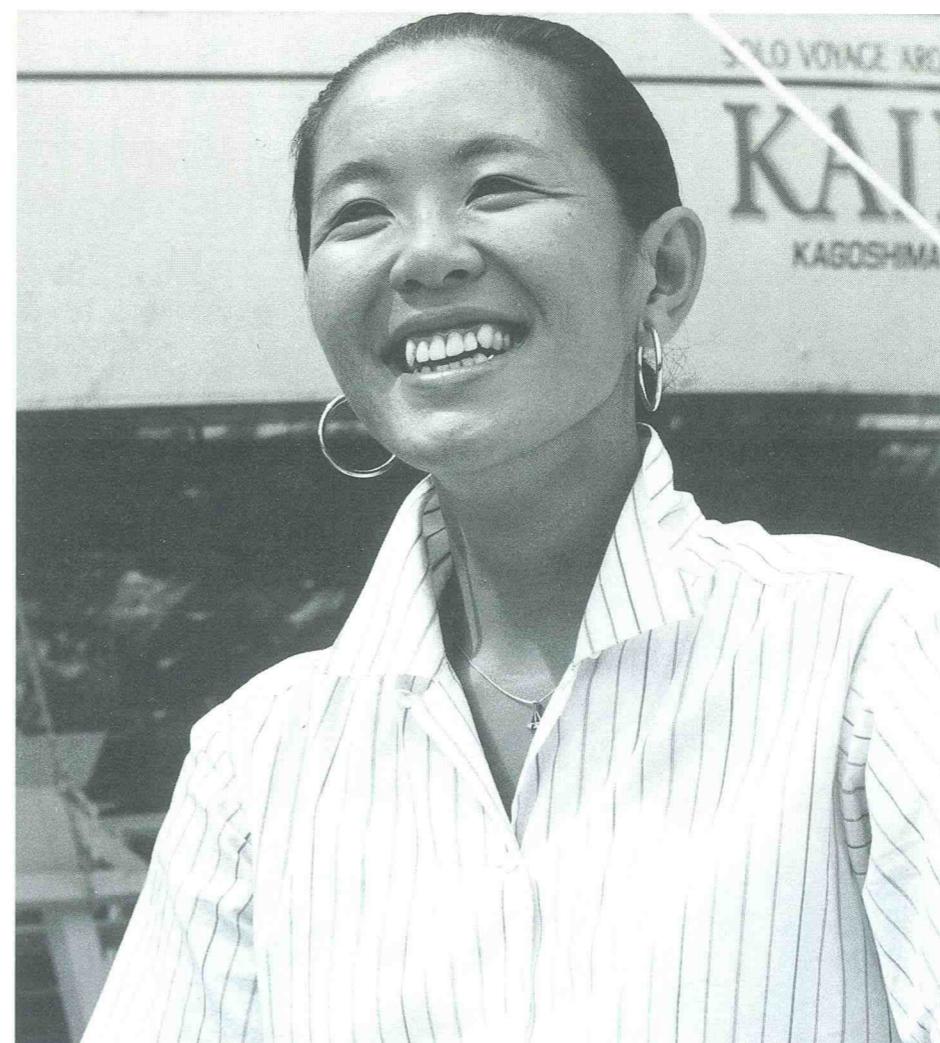
鹿児島本港北ふ頭で歓迎を受ける(7月15日)



初の鹿児島市民栄誉賞を受賞(8月3日)



7月15日、午前8時7分、山川町沖合い神瀬浮標にゴールした



敵だなあ」と思う。今給黎さんは陸の上でも輝き始めている。

自分が学べる『海の学校』みたいなものが出来るといいでですね。そのため、まず、マリンスポーツを指導するインストラクターの育成の場があれば…と提案する。

そして、自分も将来その一人となつて、海のすばらしさをいろんな人に伝えていけたらと思つてゐる。

自分の大きな夢だった世界一周の航海を成し遂げて、今「幸せ」だと語る。そんな彼女を素直に「素敵だなあ」と思う。今給黎さんは陸の上でも輝き始めている。

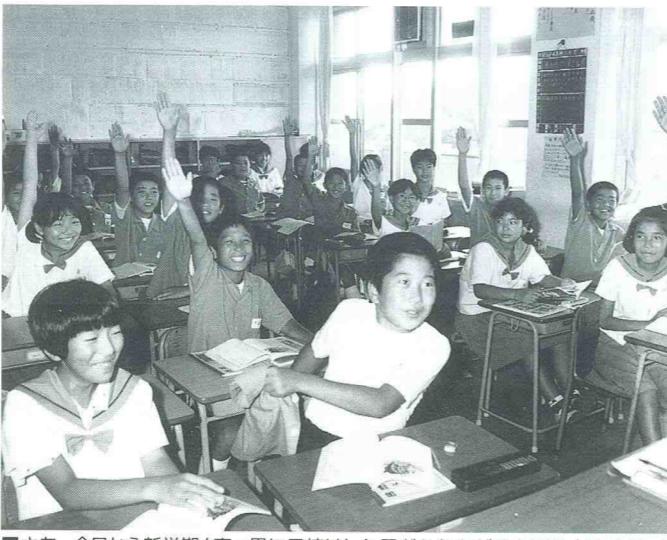
文／岩元英代・MBC記者



■親孝行の兄妹をまつった「孝子碑」。毎年、六月燈の日に校区ぐるみで盛大な供養が行われている。



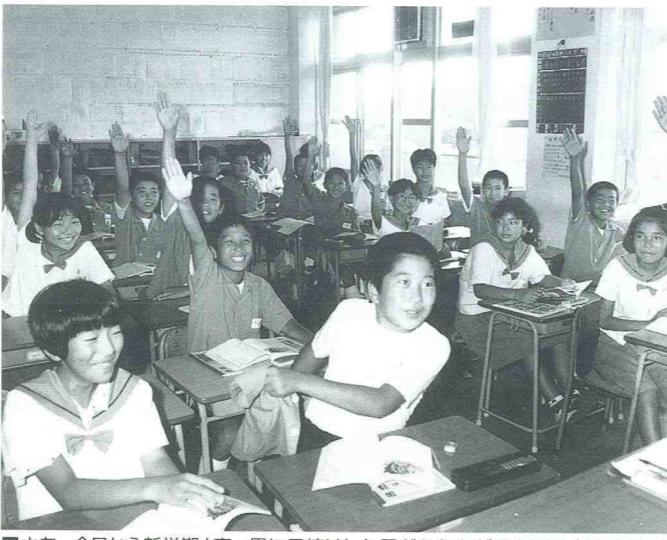
■音楽のつどい～みんなの真剣な目が指揮者のタクトに注がれる。



■小山田町は県下有数の竹の産地。日曜参観のこの日、校庭では竹を使った親子工作教室が開かれた。



■小山田小学校は、緑に囲まれた小高い丘に位置する。



■さあ、今日から新学期！真っ黒に日焼けした子どもたちがひと回り大きくなっている教室に帰ってきた。

学校探訪

小山田小学校

●創立…明治25年10月1日 ●児童数…218人(平成4年9月1日現在)



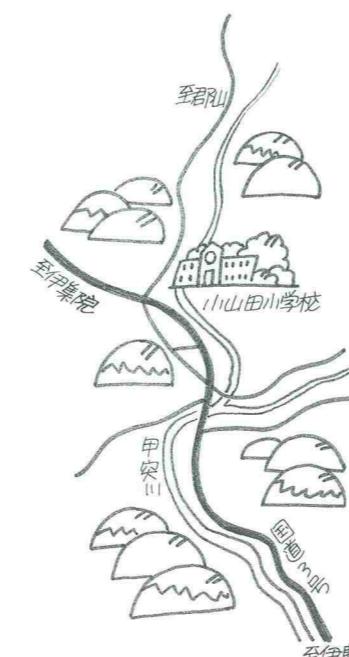
■地域に伝わる「太鼓踊り」。来年の学校創立百周年を記念して、久しく絶えていたこの伝統芸能が披露される。現在、5年生の男子はその練習に余念がない。

私たちの小山田小学校は、鹿児島市の北西にあり、伊集院町と郡山町とに接しています。校区内を交通量の多い国道三号線が通っていますが、甲突川が流れ、緑もたくさん残っていて自然に囲まれた学校です。

学校の創立は明治二十五年で、来年には記念すべき百周年を迎えます。そこで今、五年生の男子が古くから校区内に伝わり、しばらく絶えていた「太鼓踊り」を百周年記念式典で踊ろうと、一生懸命練習をしています。

ところで、私たちの学校内には「孝子碑」という石碑が建てられていますが、この碑にはこんな話があります。

今から二百十年前、ここ薩摩の国・小山田村に大変親孝行の兄と妹がありました。二人は病弱



の母さんに代わって、それはもう一生懸命働き、看病をしましたが、そのかいもなく、お母さんはなくなってしまいました。それを見た殿様が実に感心な子どもたちだと、たくさんのほうびをあげました。

いまでも毎年七月になると、兄弟の親孝行をたたえて孝子碑祭が行われています。

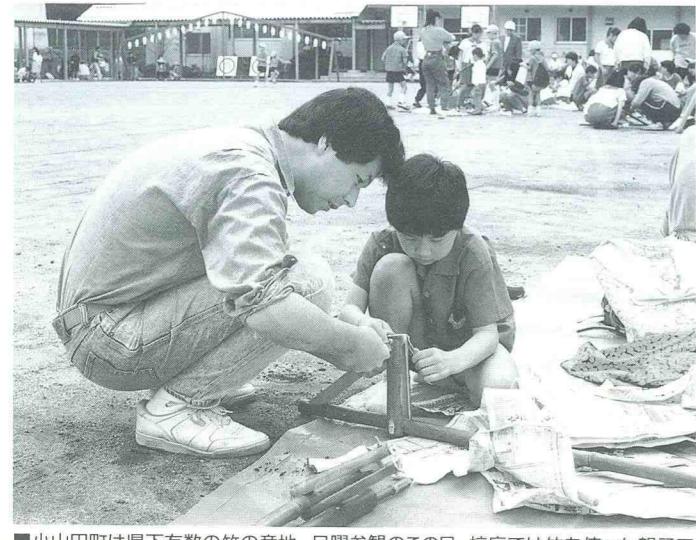
私たちの学校は児童数がだんだん減り、今では九学級で二百十八名です。しかし、人数は少なくても、花いっぱいの緑化活動や剣道、サッカー、バレーボールなどの少

年団活動などに一生懸命がん張り名です。花だんに咲き乱れる

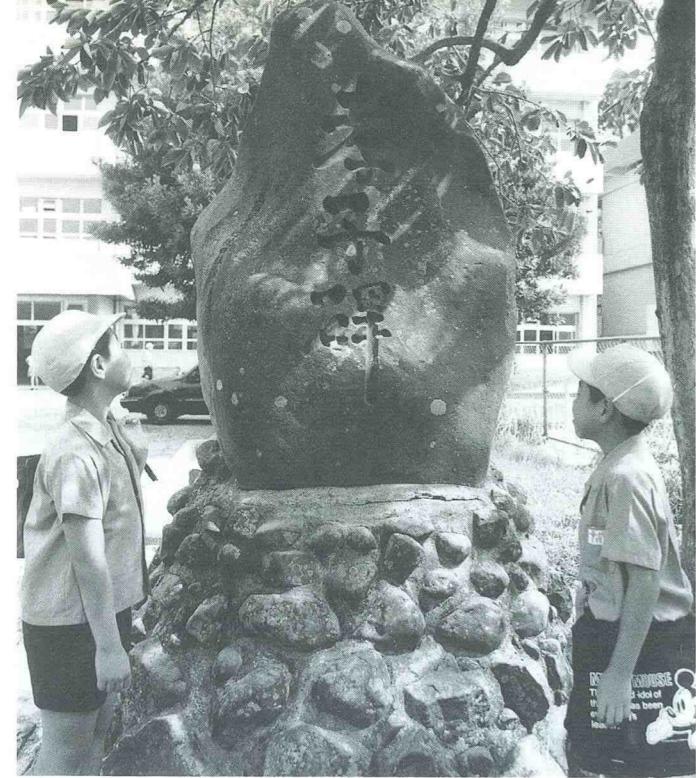
花や緑に囲まれて努力する私たちの心には、いつも校訓の「汗と涙」が目標になっています。

六年 講師田直子さん

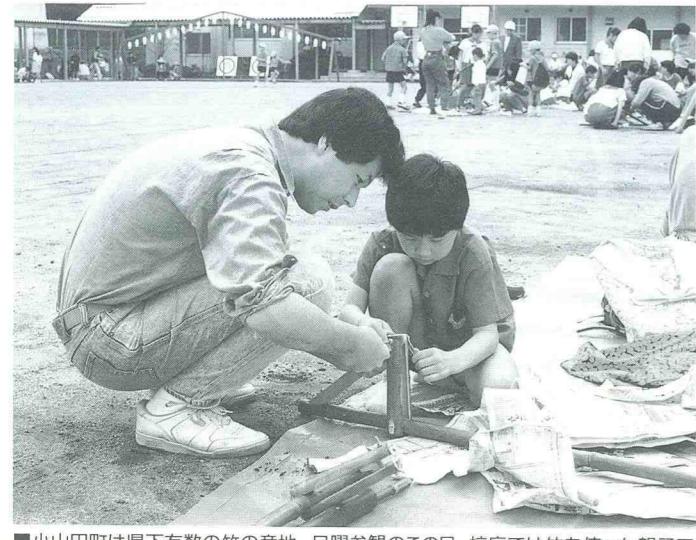
緑に囲まれた小山田小学校



■小山田町は県下有数の竹の産地。日曜参観のこの日、校庭では竹を使った親子工作教室が開かれた。



■親孝行の兄妹をまつった「孝子碑」。毎年、六月燈の日に校区ぐるみで盛大な供養が行われている。



■小山田町は県下有数の竹の産地。日曜参観のこの日、校庭では竹を使った親子工作教室が開かれた。

カメラとぴっくす



8月15日／第二次世界大戦戦亡者慰靈祭

照国神社横にある探勝園で慰靈祭が行われ、遺族や市・県の関係者、児童代表ら約200人が参列しました。参列者は慰靈碑前でめいふくを祈るとともに、平和への誓いを新たにしました。



7月25日／おぎおんさあとかごしま夏祭

鹿児島市の夏の風物詩、祇園祭とかごしま夏祭が天文館を中心に盛大に繰り広げられました。沿道の観衆は、歴史絵巻を思わせるご神幸行列や威勢のよい掛け声で街を練り歩くみこしに見入っていました。



8月26日／'92火山砂防フォーラム

「火山を知り、火山とともに生きる」をテーマに火山砂防フォーラムが市民文化ホールで開かれました。火山を抱える全国32市町村の関係者が集まり、火山との共生方法などについて考えました。



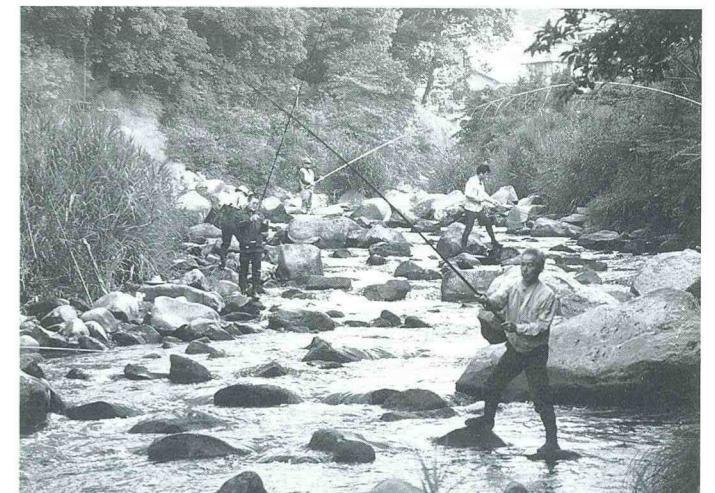
8月7日／オリンピック銅メダルの木場選手来庁

バルセロナオリンピックのライフル射撃(フリー三姿勢)で日本初の銅メダルを獲得した木場良平選手(原良町出身)が赤崎市長を表敬訪問しました。



7月11日～12日／高齢者洋上セミナー

お年寄りに、これからの生きがいや自立意識を学んでもらおうと企画されたこのセミナー。200人の参加者はみんな元気に大型フェリーでの錦江湾クルージングを楽しみました。



6月1日／甲突川アユ漁解禁

甲突川上流では朝5時の解禁とともに約300人の釣り人が一斉にさおを投げ入れました。川のあちこちで銀色のアユが輝いていました。



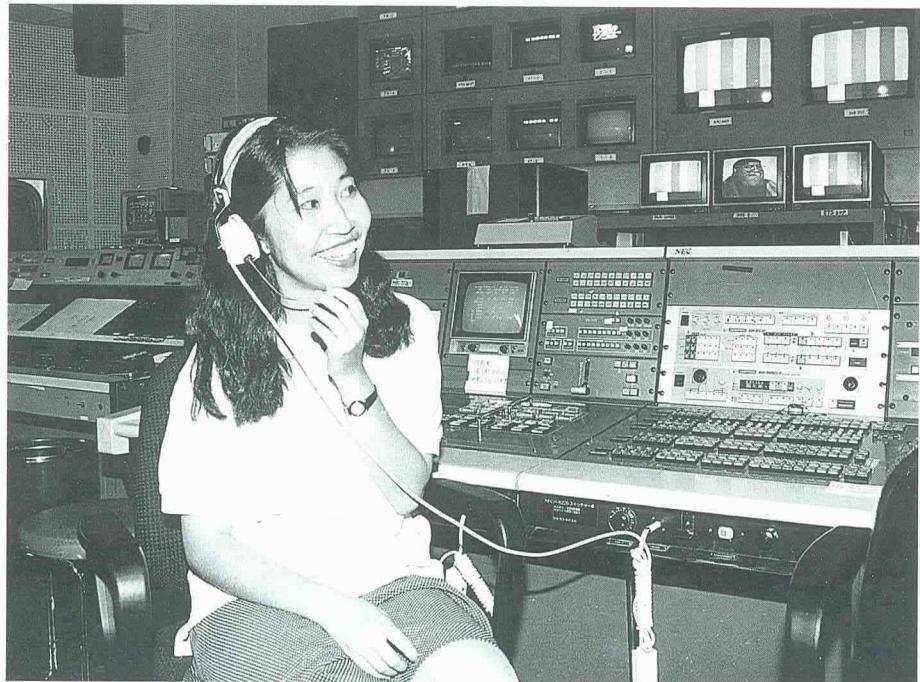
錦江湾横断遠泳／7月22日(松原小)、7月23日(清水小)

松原小学校と清水小学校の児童が錦江湾横断遠泳に挑戦し、桜島から磯海岸までの約4kmを全員完泳しました。遠泳を果たした児童のさわやかな笑顔が印象的でした。(写真は松原小の皆さん)



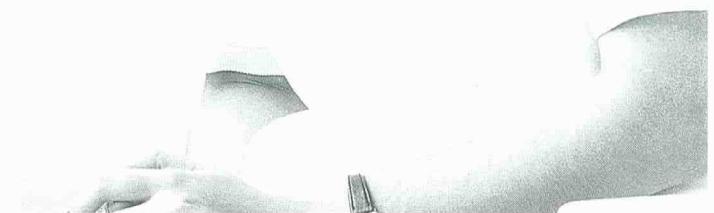
7月6日／萩尾前助役出立式

7月1日付で建設省都市局特定都市交通施設整備室長に就任された萩尾前助役の出立式が市役所であります。式後、職員らの拍手に見送られ、市役所を後にされました。



HELLO—KAGOSHIMA
アウ ドン リン
區 冬蓮さん(香港)

MBC制作部ディレクター



毎週火曜日、テレビから軽快な音楽が流れて「アウの国際通り」のコーナーが始まる。鹿児島に住む外国人の人びとが、鹿児島をどう見て感じているかなどを取り上げる、彼女の担当番組だ。

彼女自身、去年の九月からMBCの制作部でディレクターとして働く、香港から来た『外国人』なので、取材先の人びとの気持ちがよくわかり、深く話し合えるという。

「日本人は外国人を『外人』と略して呼ぶけど、もっと略してくれれば『人』となるんですよ」。つまり、皆同じ人間なのだから、お互いに

もつと積極的になれば、より親しくなるのはずだという。「外国人の人と付き合ってみて難しいと思つたら、すぐあきらめてしまう人が多いけど、もう一度、お互いのことを考えてみてください」。

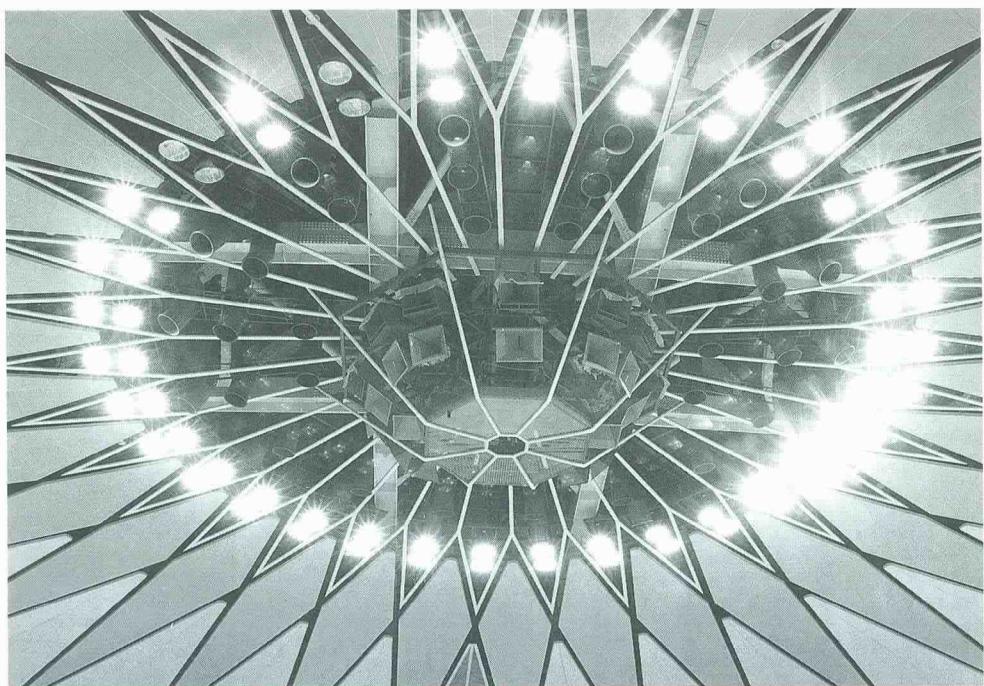
三年前、国際基督教大学に留学中、「からいも交流」に参加して来鹿。その時、世話になったホストファミリーとは今でも交流が続き、休みの日に会いに行くと「家に帰った」という気分になるそうだ。どこに住んでも人と人との絆を大切にすれば大丈夫」。

テレビ局に勤めたのも、人とふ

れあう仕事がしたかったから。番組の企画・制作など全てが勉強で、忙しい毎日だが、いろいろな人と知り合えるので、とても充実しているそうだ。希望を言えば「鹿児島にも、もつと世界からの情報が多い」ということ。

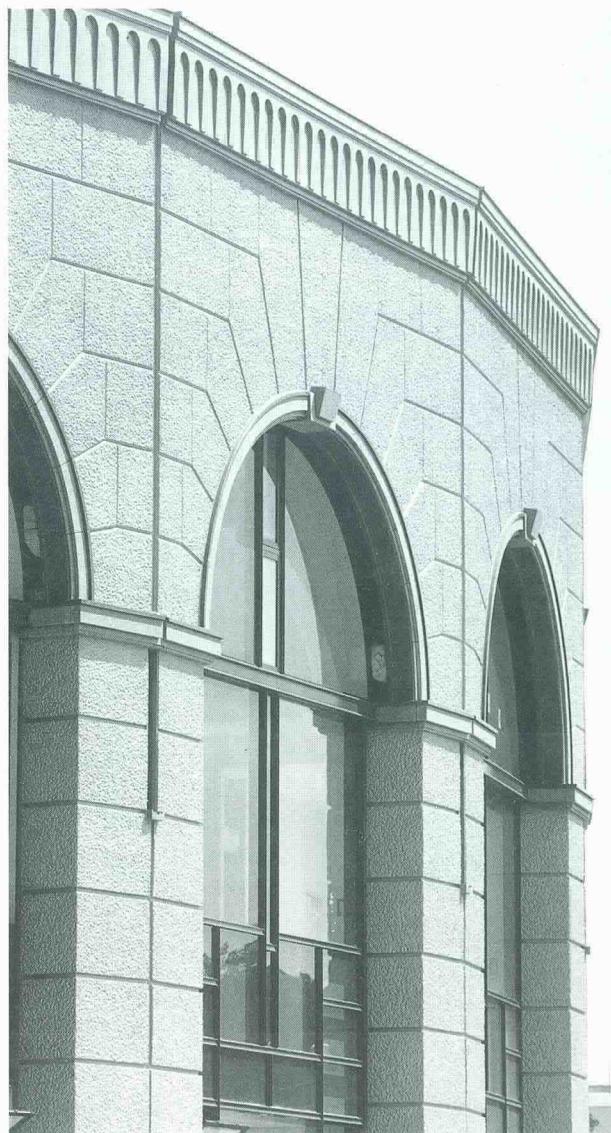
現在、母国語の広東語のほか、中国語(北京語)、英語、日本語を自在に操るが、もつと多くの言語を身につけることが目標とか。自分の限界に挑戦していくたいという意欲的な彼女のこれから番組は?「それは企業秘密です」。見て

CITY ANGLE

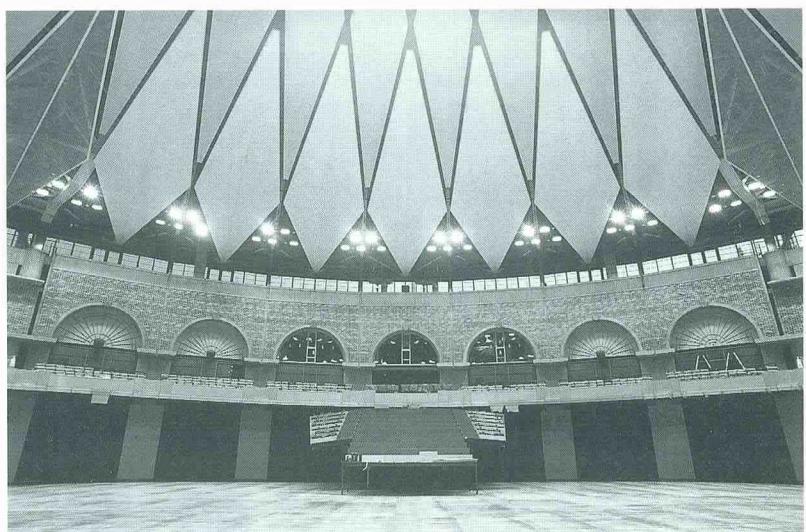


▲UFO大接近!? 実は、メインアリーナの天井にある照明・音響設備です。

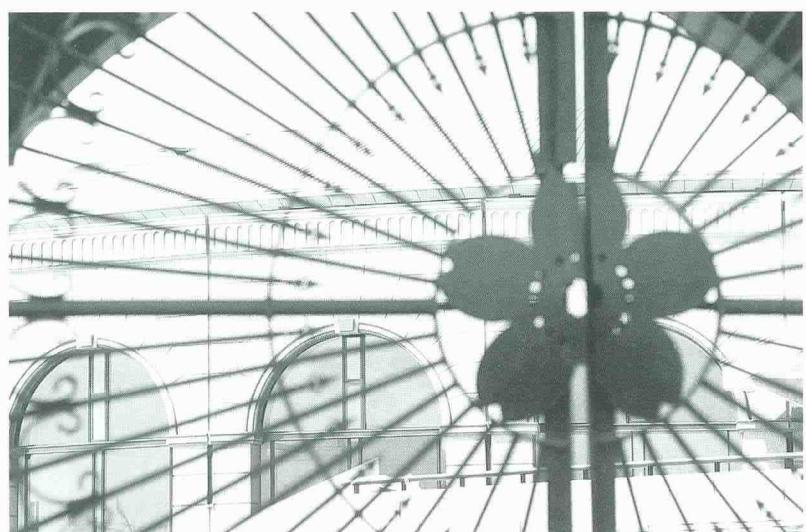
鹿児島アリーナ



▲教会のたたずまいにも似たメインアリーナの外壁



▲最大客席数は約5,700席のメインアリーナの内部



▲旧刑務所跡の鉄門から鹿児島アリーナを望む

わたくしの散歩道

鹿児島県考古学会 会長 河口 貞徳さん

何事も「過程」が大切！

私の住んでいる荒田地域は、先史時代は海岸線だったんですよ。

遺跡を調べると分かるのですが、人は、まず台地に住みはじめ、そして平地に下りてきたのです。ですから、台地と平地の接点には、たくさん遺跡が発見されています。

長い目で見ると…、人間は次第

に平野部を開拓しながら、自然を壊してきたと言えるでしょう。

私たちは、自然の中では心が休まり、大木に身を寄せる歴史を感じます。特に、緑の自然空間は大切だと思います。

そうした意味でも、鹿大の周辺には人が暮らす都市にとつて、欠かせない緑が豊富にあります。

鹿児島市は戦災で、そのほとんどを焼失しました。でも、最近では街もきれいになりましたね。

まちづくりが順調に進んでいる証拠ですよ。

自然の要素を加味し、環境を大事にしていくまちづくり。このよ

うな姿勢は、ぜひ次代に引き継いでいきたいものです。

郡元町にある一之宮神社の境内の奥には、昭和二十五年に県内で

う機会が少ないです。

遺跡の発掘現場に連れていくと、本当に喜んでいますから…。

玉龍高校の教師時代にも、いろ

いろなところに生徒たちを連れて行きました。

よく足を運んだ吉野町の石郷遺

跡もその一つ。二三時間ぐらい

ました。

生きしていく中で、このようにさまざまな思い出を持つたり、自分に刺激を与えるものと出合うことは、成長していく上で重要なことだと思います。

う機会が少ないです。

遺跡の発掘現場に連れていくと、本当に喜んでいますから…。

玉龍高校の教師時代にも、いろいろなところに生徒たちを連れて行きました。

かけて寺山周辺まで歩いていました。懐かしいですねー。

この石郷遺跡は、本県における考古学の始まりの場所。

大正四年、英國人マンロー博士

によつて縄文時代の土器の破片や

住居跡が発見されたのです。

魚の絵が描かれた土器も発掘さ

れていますから、高台から海に行つていたことが分かります。

漁をしていましたね。

どうして、ここでこんな物が見つかるのか？それが考古学の最初の出発点なのです。

本当に楽しいですよ。

見つかった一つ一つの土器を組み立てていくときは、パズルのよう

うに、ああでもない、こうでもないと、推理することになります。

山の頂上を目指すとき、苦しさを味わいながら頂上にたどりついたときのあの喜びと同じように、物事の途中を体験していくことは大切なことです。頂上に登る。すなわち、考えることは私の生きがいです。

考古学の話を聞きながら、河口先生

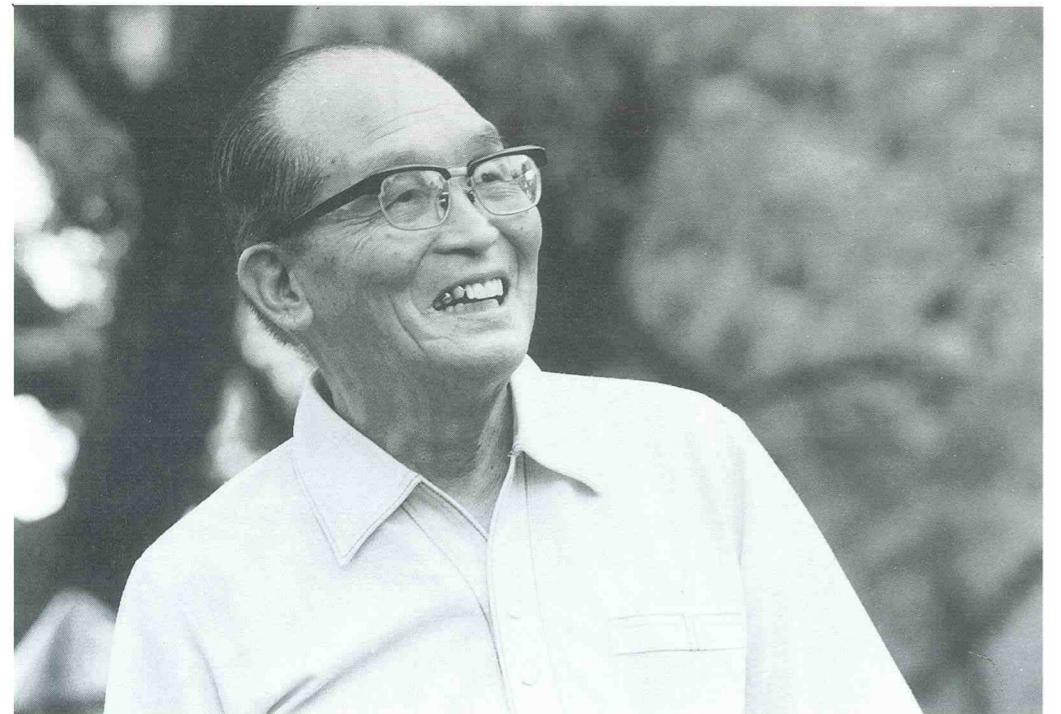
過程があるからこそ出発点があ

ります。

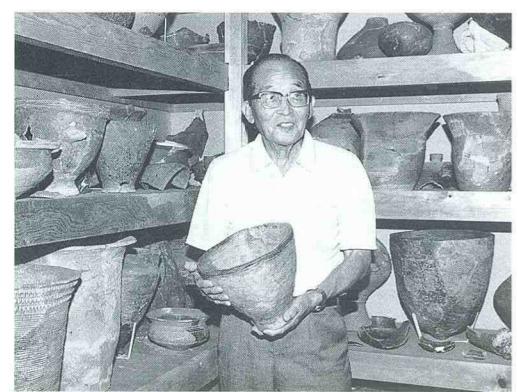
古代時間」を味わった。そして、考古学は、その名のとおり、考え方を確立するための過程です。

現在、県考古学会会長を昭和四十七年から十一期務める傍ら、遺跡マイカーでかけめぐり、自宅ではワープロに向かい、日々埋蔵文化財研究に没頭している。

昭和四十年、南日本文化賞受賞。著書に「古代遺跡38鹿児島」。八十二歳。加治屋町生まれ。



▲吉野の吉山で、自然の素晴らしさや「考える」という必要性を滔滔と語る。



▲荒田二丁目の自宅の研究室で見せていただいた土器の数々。先生の口調が一段と弾む。



▲数えきれないくらい足を運んだ石郷遺跡の碑をバックに！



▲鹿児島大学前、クス並木の散歩道にて。

最初に発見された弥生時代の住居跡があります。

いまから約二千年前の人々が住んでいた竪穴式住居なのです。

うつそうとしたこの地で昔の人々が暮らしていたことを考えると、何か、古代人になつたような思いがします。

そうそう、若いころ、宮崎の発

掘作業を見学に行きました。

その後、現場を回り始め、最初

に手がけた畑の発掘現場で土器の破片を見つけたのです。何か、ス

ーッと古代に引き込まれるようなそんな自分を鮮明に覚えています。

もっと以前に目を向けると、小学校のとき、妙圓寺まいりや曾我どんの傘焼きなどに参加し、伝統

的な世界に心引かれたこともあります。

その後、現場を見学に行きました。

土の中から出てきた土器を初めて見たときは、感動しました！

その後、現場を回り始め、最初

に手がけた畑の発掘現場で土器の破片を見つけたのです。何か、ス

ーッと古代に引き込まれるような

そんな自分を鮮明に覚えています。

もっと以前に目を向けると、小学校のとき、妙圓寺まいりや曾我どんの傘焼きなどに参加し、伝統

的な世界に心引かれたこともあります。

その後、現場を見学に行きました。

土の中から出てきた土器を初めて見たときは、感動しました！

その後、現場を回り始め、最初

に手がけた畑の発掘現場で土器の破片を見つけたのです。何か、ス

ーッと古代に引き込まれるような

そんな自分を鮮明に覚えています。

もっと以前に目を向けると、小学校のとき、妙圓寺まいりや曾我どんの傘焼きなどに参加し、伝統

的な世界に心引かれたこともあります。

その後、現場を見学に行きました。

土の中から出てきた土器を初めて見たときは、感動しました！

その後、現場を回り始め、最初

に手がけた畑の発掘現場で土器の破片を見つけたのです。何か、ス

ーッと古代に引き込まれるような

そんな自分を鮮明に覚えています。

その後、現場を見学に行きました。

土の中から出てきた土器を初めて見たときは、感動しました！

その後、現場を回り始め、最初</

市民のひろば



新港を出航したフェリーの甲板でウォーターフロント開発や港についての説明を受けました。

海に長才の声が響く 高齢者洋上セミナー

六十五歳以上の高齢者を対象に、大型フェリーを使って一泊二日で錦江湾をクルージングしながら高齢化社会について考えていこうと「高齢者洋上セミナー」。番組では、参加した一百人のお年寄りの皆さん生き生きとした表情や喜びの声、そして、市長と参加者の中から出演していただいた皆さんとの会話が弾みます。

■人との出会いを

期待に胸をふくらませ

上野 梅雨も明け、すっかり夏空になつた七月十一日。旅行バッグを下げたお年寄りたちが次々に船に乗り込みます。

参加者

「アイデアが素晴らしい」

「皆さんと顔を合わせることが樂しみです。普段は家の中ばかりで、人と会う機会がありませんから」「友達との出会いが樂しみです」。

■鹿児島市が、こんなに大きな都会とは思つてみなかつた

上野 乗船した参加者は、鹿児島

「海から見た鹿児島市は、どうですか？」

上野 海から見た鹿児島市は、どうですか？

参加者 「素晴らしいですね。こんな大きな街だとは思いませんでした」

「あんな山の上まで建物があるんですね。いつも通るときには何も感じなかつたですが…」

■少し前まで海の主役は長才だった

上野 市長さん、高齢者の皆さんは、この洋上セミナーを本当に楽しんでおられたようですね。

市長 青年のように、生き生きとした眼をしておられますね。

このセミナーは、豊かな老後をどうするか。生きがい、健康をどのように求めていくか。そのことをご自身で考えていただきたいと企画しました。このような広い海の上だと、いろいろな発想が浮かんでくると思います。

■絵を観てているような海からの鹿児島市の眺め

上野 海から見た鹿児島市は、い



上野 知子(司会) 赤崎 義則(鹿児島市長) 原口 泉(鹿児島大学助教授)

「市民のひろば」はMBCから放映されます。放映日時は、毎月第3日曜日を除く日曜日の午前10時30分から15分間。ただし、第4日曜日は30分間。(この番組は平成4年7月26日に放映したもの)



写真の出演者

写真右から

原口 泉(鹿児島大学助教授)、河野泰子(鹿児島市山下保健所所長)

赤崎義則(鹿児島市長)、宮元重司、上野知子(司会)

福山 薫、柳原米一、刈川静枝、田中スミエ

下園了、塙入トシ子、塙入光夫の皆さんと、

クイーンコアラルフの船上での収録風景

■錦江湾は大変な宝

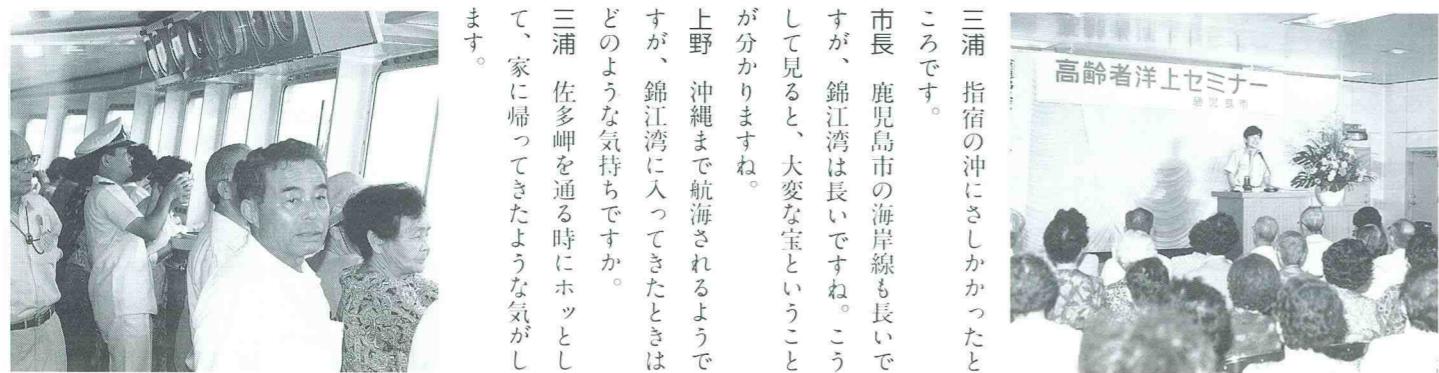
上野 この操舵室からの眺めは、いいですね。三浦船長さん、今どおりですか。



三浦甚蔵船長から説明を受ける

●船内では、原口泉先生の『錦江湾その歴史と魅力を語る』という演題の講演や高齢化社会をテーマにしたクイズにお年寄りは一生懸命参加していました。

また、ロビーには地域活動やボランティア活動の展示コーナーや高齢化社会をテーマにしたパネル展示も行われていました。



講演会では真剣に聞き入る

■いつまでも若くあるために感動を覚えて

上野 このセミナーに参加された皆さんは楽しみながら勉強をしておられます。塙入さん、ご夫婦で参加されて、いかがですか。

塙入(妻) 最高の気分です。

上野 宮元さんは、どうですか。

宮元 私の好きな俳句が二つもできました。『梅雨明けの光る海見て若返る』。漁船行く遙か下なる水母かな

上野　皆さん、大変喜んでいらっしゃいますね。

市長　まさに少年少女のような目の輝きですね。保健所の河野所長が「いつまでも若くあることは感動を覚えること」と言っていますが、その言葉のように感動を覚えています。

河野　とても六十五歳以上の方々の集まりとは思えません。いろいろなことに興味を持つて質問をされていましたが、その姿こそが長寿の秘訣だと思います。

原口　人との出会いがあつたと話された方がいたのに感激しました。昔の人や新しい人の出会いの喜び。そして、風景の美しさを感じる心が素晴らしいですね。

上野　皆さんは、どのようなことが生きがいになっていますか。

福山　八十五歳ですが、ねたきりにならないように、自分のことは

河野　生きがいがあると人生が豊かになります。生きがいとは、家庭や社会の中で自分が役に立つと思えることです。趣味や若いころの仕事を生かしながら、地域社会にボランティア活動をされることは

健康へ導くことだと思います。「生きがいは健康への道」というのは、そういうことだと思います。

河野　とても六十五歳以上の方々

歌に合わせて踊り出すカップル？



自分でするということを習慣にしようと思っています。タバコは吸わ

ず、焼酎も週一回。朝、目覚めたら寝床の上で体操をしています。

刈川　地域公民館の講座が生きがいです。ちぎり絵、日本画、大正琴をやっています。今日のようないい處に参加して多くの方と話すのもいいですね。

田中　勤めている間は何もできなかつたので、何でも挑戦してみよう。今、三味線、詩吟、踊り、登山を登りをしています。やってみると、何でもできるという自信がつきました。

下園　日舞を三十五年ほどしています。毎日、着物を着て、足袋を履き、帯を締めて、一曲でも踊ることが生きがいです。また、市の園芸講座も受けています。四季折々の花を咲かせるのも楽しいです。

上野　河野所長、生きがいを持つことは長生きの秘訣の一つですね。

柳原　歳をとっても自分に甘えな

いことです。自分のことは自分で

思えない、負担をかけないようにと

する。子供にも社会にも迷惑をかけない、健康な人生を送っています。

上野　これからは、ますます高齢化は進むといわれていますが、市

長さんは、どのようにお考えですか。

市長　今回、参加された方々のよ

うに元気で生きがいを持った高齢者の皆さんがいる。そんな社会を目指すことが大事です。国・県・市で協力し合って、高齢者の皆さんが長生きしてよかつたと思える、また、暮らしていく、そんな高齢者対策を考えていきたいですね。

上野　港では新しく友達になった人と互いに住所を教え合い、名残惜しそうに別れていくシーンが見られました。参加した皆さんにと

って、思い出深い洋上セミナーに参加することも大切です。

長い老後を健康で生きがいをもつて過ごすためには、趣味を持つたり、地域活動や、こうした催しななたようです。

上野　港では新しく友達になつた友達になりました。住んでいる所にお年寄りがいないので、友達ができるうれしいです。



座談会で活発に意見交換

■長生きしてよかつたと思える 高齢者福祉対策をつくる

上野　健康面では、どうですか。

塙入(夫)　早寝早起きで、夜は七時に寝て、朝六時に起きています。

上野　よく寝て、身体を動かすことが一番のようです。

刈川　食事の好き嫌いをしないよう心掛けています。身体に異常を感じたら、素人判断をしないで、すぐ医師に診てもらうようにしています。

●錦江湾の漁港をグルッとひとまわりする間、船内では原口先生、河野所長、鹿児島市福祉事務所長を交えて座談会が開かれ、参加者の活発な意見が飛び交いました。

柳原　歳をとっても自分に甘えな

いことです。自分のことは自分で

思っています。生きがいとは、家庭や社会の中で自分が役に立つと思えることです。趣味や若いころの仕事を生かしながら、地域社会にボランティア活動をされることは

健康へ導くことだと思います。「生きがいは健康への道」というのは、

そういうことだと思います。



甲板での朝食は最高でした!

■楽しんでいただけた

高齢者洋上セミナーでした

上野　とうとう鹿児島新港に着いてしまいましたが、参加されていかがでしたか。

参加者　洋上から鹿児島市を見るのは初めてでしたので、本当に

ふるさとの史跡

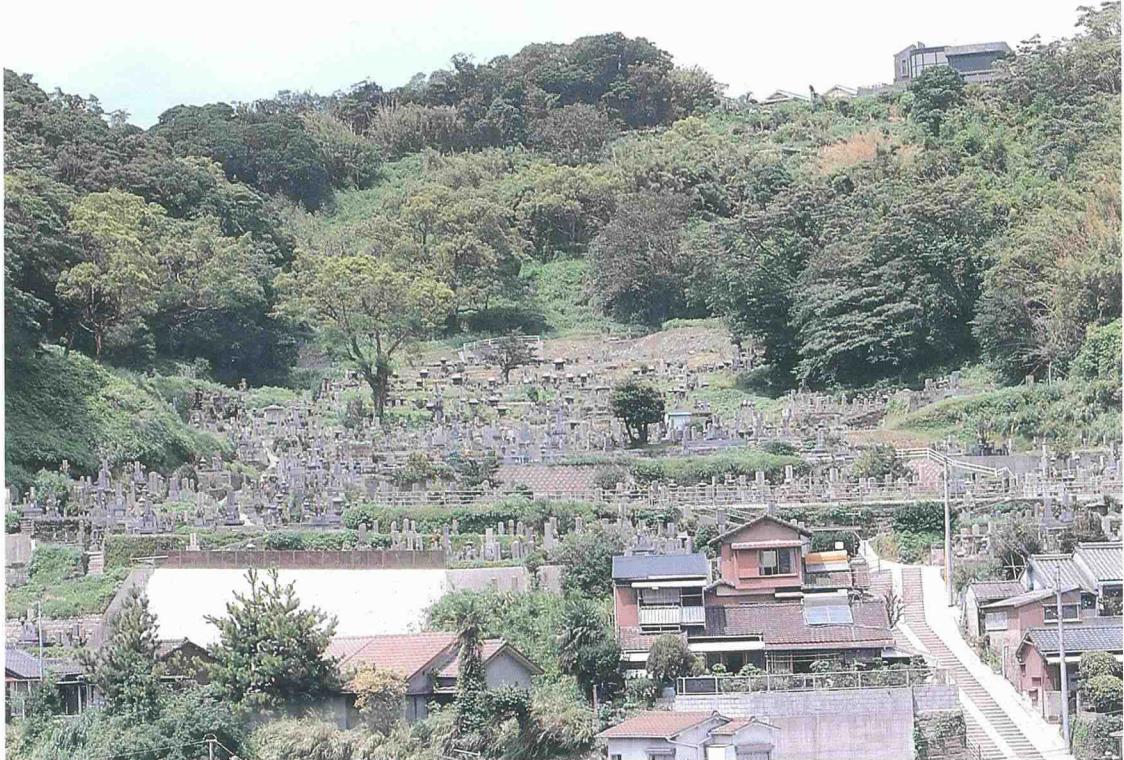
日当山侏儒どんなどが眠る

興國寺墓地

県文化財保護指導委員

西元

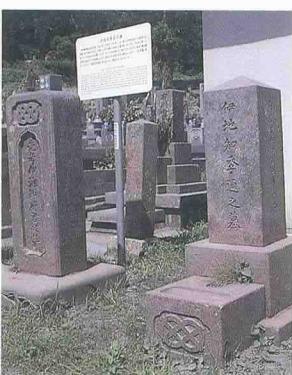
肇



長田神社から見た興國寺墓地



長沢鼎の墓



伊地知季安・季通の墓



日当山侏儒どん(徳田大兵衛)の墓(右)

立野馬場から冷水峠への入口、
比丘尼坂のバス停から右へ小道を
登ると、前面に百余りの階段が見
え、その上の傾斜地に興國寺墓地
がある。

この墓地は、福昌寺の末寺・大
平山興國寺があつたところで、島
津家第十一代忠昌と、第十八代家
久夫人持明院の菩提寺であつた。

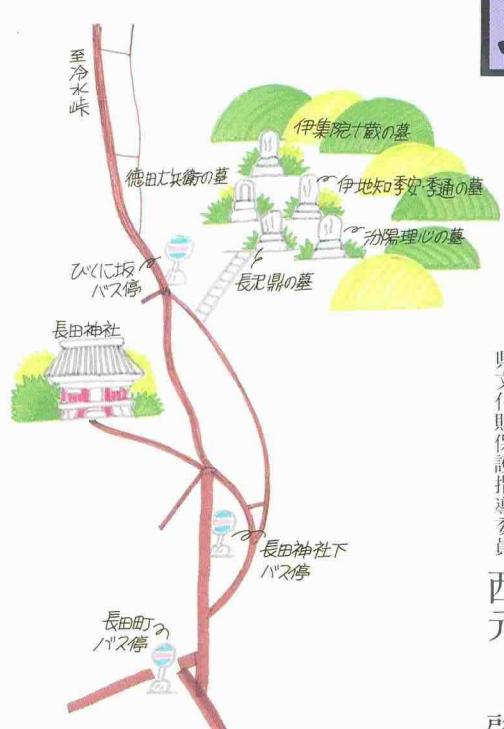
現在、墓地の下段西側に、幕末
イギリスに留学し、後にアメリカ
に渡り、「ぶどう王」といわれた長
沢鼎の墓がある。

中段西側に、日当山侏儒どんの
墓がある。島津家第十八代家久や
第十九代光久に仕え、日当山の地
頭になつた徳田大兵衛がその人で、
身長が一メートルほどの小男だったので、

「侏儒どん」と呼ばれた。殿様の前
でも笑い話、頓智話などをしたと
いわれる。

中段東側に、幕末の歴史学者の
伊地知季安・季通の墓がある。島
津氏七百年の歴史の編纂に当たり、
親子二代で「薩藩旧記雑録」を完成
させた。

上段中央に、宝曆治水工事の副
奉行伊集院十蔵久東の墓、下段東
側に、島津氏お抱えの明人医師、
汾陽理心の墓もある。



集えば楽し

障害者福祉を さらに大きな幹へ！——ボランティア「わかば」の皆さん

勤労婦人センター・自主クラブ



『ボランティアサンタおばさん、いつも、ありがとうございます！わかば園の子供より……』
勤労婦人センターで昭和五十七年度講座生の「社会参加活動推進研修会」参加者によつて結成された「ボランティアわかば」。

そのメンバーは、未就学の心身障害児通園保育施設「わかば園」や玩具図書館「エンジェル」へ、安全で訓練にも利用できる手作り玩具を

製作提供しながら、障害児および母親との交流にいそしんでいます。
代表の松尾智子さんは、「わかば園で、園児とそのお母さんたちが障害を乗り越えているのを見て本当に勇気づけられます。特に、子供たちの一生懸命さと接するときは、ふれあいの度合いも倍加します」と、生き生きした表情を隠せません。

現在、会員は二十一人で、年齢

構成は三十代から七十代まで。

同センターでの学習や仲間との交流の成果など、感謝の気持ちを社会にお返しできたらと願つて続けてきた活動も、今年でちょうど十年の節目を迎えました。

五月には多年にわたる障害者福祉への取り組みが評価され、鹿児島市から感謝状が贈られました。

このほか、会員の皆さんはそれぞ料理、バドミントン、生け花、

踊りなど、センターの修了生でもあります。

いろいろな交流を楽しみながら自らの持てる力をフルに発揮している、ボランティアわかば。

婦人の館を拠点に活動を続ける一人ひとりの姿からは、まさに大きな幹へ成長していく「わかば」のようなみずみずしさがにじみでていました。

あ・な・た・の フォトサロン

'92 イン・サマー

夏休みの子供たちを中心に、一部だけですが撮影してみました。期間中、毎日どこかで何らかの行事が計画され、多くの子供たちが体験学習や奉仕活動をしたりと、恵まれた環境で、すばらしい経験をし、夏を満喫しているようです。今年の夏は、ハッショウトンボ(体長2cm)が3年ぶりに再発見されるなど、自然もまだまだ捨てたものではありません。自然と触れ合う子供主導の夏休みもあってよいのではと思うことでした。

写真と文／荻田勝郎さん



スイカ割り



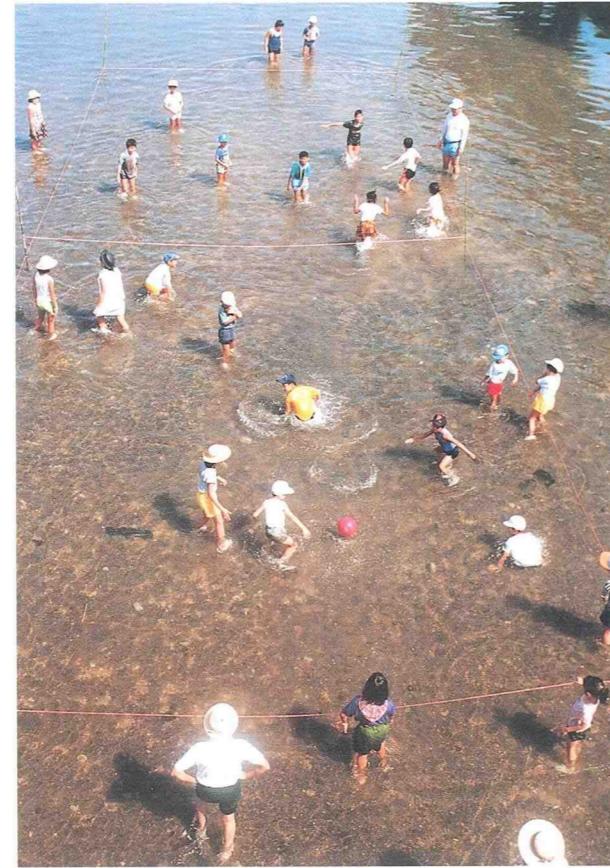
クリーン甲突川・新川作戦



花火



ハッショウトンボ



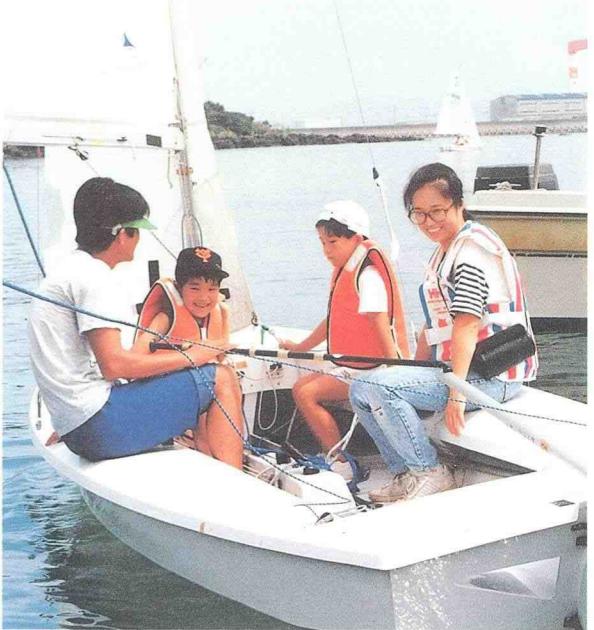
甲突川でドッヂボール



ラジオ体操



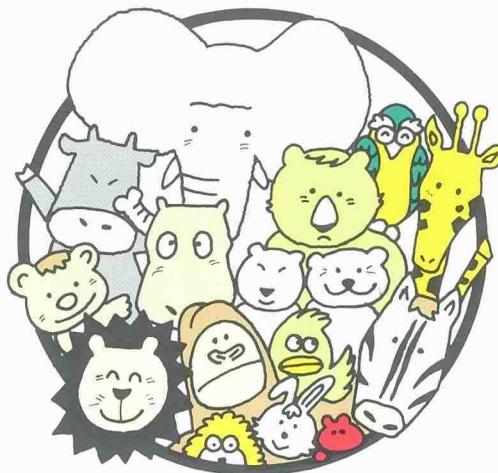
七夕さま



錦江湾ヨット体験帆走



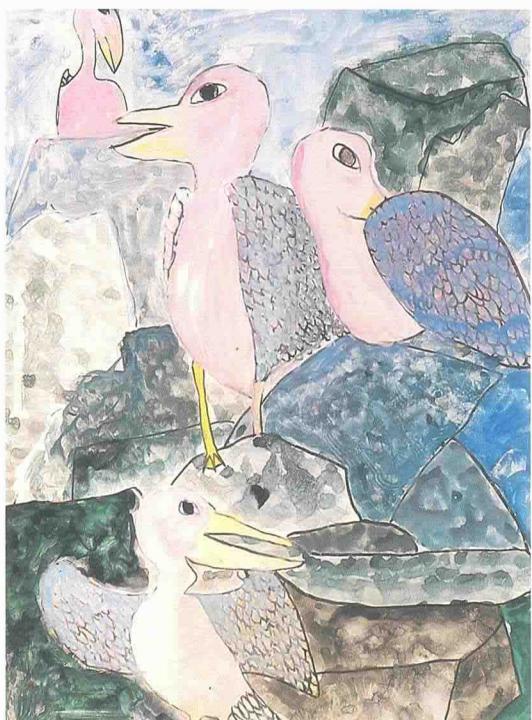
親子造形教室



動物公園の ゆかはな仲間たち



鹿児島市長賞 すずき あやのさん(原良小1年)・きりん・だちょう



平川動物公園長賞



市教育委員会賞
鎌田 奈穂さん(宮川小4年)・りすのもり



日本動物園・水族館協会会长賞
みのも じゅんやさん(清和小2年)・くじやく

七月二十一日～三十一日に行われた「夏休み動物スケッチ大会」。六百十九点の応募作品の中から七十二人が入賞し、そのうち五人に特別賞が贈られました。

じっくり観察して描きながら、子供たちは動物とどんな語らいをしたのでしょうか。作品には、子供たちの動物に対する愛情があふれているようです。

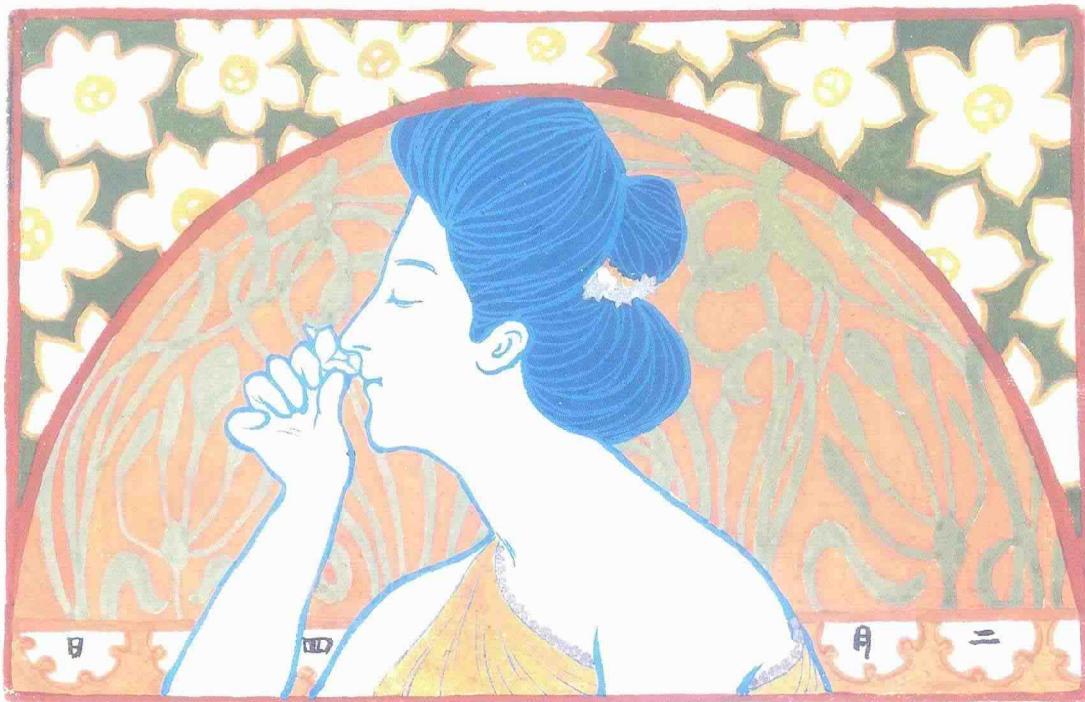
夏休み動物スケッチ大会



市議会議長賞
うきた のぞみさん(田上保育園)・きりん



市立美術館



花の香をかぐ女(1905年頃)

サイズ(9.1cm×14.1cm)

水彩・紙(はがき絵)

橋口 五葉(1880~1921年)

〈作者〉 明治13年、鹿児島市樋之口町に生まれる。本名は清。鹿児島で狩野派の絵を学び、明治32年に上京。初め橋本雅邦の門に入り日本画を学ぶが、同郷で、遠縁にあたる黒田清輝の勧めによって白馬会研究所に通い洋画を学ぶ。翌33年、東京美術学校西洋画科に入学し、3年在学中には特待生となる。

明治37年、夏目漱石の知遇を得て、雑誌

『ホトトギス』の表紙絵、カット等を描く。

38年には漱石の『我輩ハ猫デアル』の装幀意匠をきっかけとして、以後、多くの文芸作品の装幀を手がける。明治44年、三越呉服店主催の懸賞広告画で第一等に当選し、一躍有名になる。

大正になってから浮世絵の研究に没頭し、多くの論考を発表すると同時に、江戸期浮世絵の復刻を監修した。大正4年、初の創作木版画「浴場の女」を制作。以後、大正10年、41歳で没するまでの数年間に珠玉の如き作品を残して「大正の歌磨」と称されている。

△解説△ 本図は、五葉が東京美術学校在学中に描いた水彩によるはがき絵である。はがきの宛て先は東京赤坂の河野元子様となつている。当時、橋口家と河野家は家族ぐるみのつき合いをしており、明治三十六年には五葉が河野家の欄間に油彩画を描いたりしている。五葉は今日、優れた木版画家として有名であるが、本図を描いた頃は、まだ油彩画を学んでいた。しかし、後に浮世絵研究や木版画の制作に取り組むことから伺えるように、五葉の資質は日本の伝統的な美術に向いていたようである。そのことは既に平面的な装饰性を示す本図にも表れている。背景に花や抽象的な草木文様を配し、横向きの女性が少し気取つて花の香をかいんでいる。古代ギリシャ風の衣服を着ているが、髪型が日本的であるところが微笑ましい。明治の文芸界に流行した浪漫主義的な思潮を反映した作品といえる。

市立美術館学芸員

山西 健夫

鹿児島アリーナ堂々完成

スポーツや音楽、ステージ催事、展示会、大会・会議など、いろいろな催しに利用できる多目的ホールが誕生します。

10月20日 開館記念式典



- 施設内容／メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、弓道場、トレーニング室、EXスタジオ、会議室、軽食喫茶室など
- 開館時間／8時30分～21時
- 休館日／毎週金曜日、12月29日～翌年1月3日
- 電話／85-2244



- 【10月・11月の主なイベント】**
- 10月20日…鹿児島アリーナ開館記念式典
 - 10月23日～25日…NHK杯国際バレーボール試合女子鹿児島大会
 - 10月27日…市民ふれあいスポーツ大会
 - 11月1日…福祉ふれあいフェスティバル